YAMAHA

パワーアンプ

M-5000

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機は、高音質なステレオ再生をご家庭で楽しむためのパワーアンプです。
- 本説明書では、本機を使用する方のために、機能や接続方法などを説明しています。
- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書および「安全上のご注意」（別冊）をよくお読みください。
  お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

保証書別添付

- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

本書は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。
https://download.yamaha.com/

本機の特長

- 入力から出力まで、フルフローティング＆バランス伝送
- 高剛性のレバースイッチ
- メカニカルアース構造による振動の安定化
- 左右対称設計
- 独立 4 回路の大容量電源、33000 μF × 4 の大型キャパシター
- 新設計の真鍮製スパイクレッグ
- モノラル駆動による大出力 400W/8 Ω

本書の記載について

- 本書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- 「 **警告**」は、死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される情報です。
- 「 **注意**」は、傷害を負う可能性が想定される情報です。
- 「**注意**」は、製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐための情報です。
- 「**メモ**」は、製品についての補足情報です。
- 本機をご使用になる前に、別冊の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

目次

本機の特長 2
本書の記載について 2
付属品 4
お手入れ 4
本体側面の鏡面部 4
鏡面部以外 4

各部の名称と機能

フロントパネル 6
リアパネル 8
バランス接続とアンバランス接続 10

接続

プリアンプとの接続 12
トリガー接続 13
基本的なスピーカー接続 14
スピーカーケーブルの接続方法 16
通常のスピーカーケーブルで接続する 16
バナナプラグのケーブルで接続する 17
Y型ラグのケーブルで接続する 17
バイワイヤリング接続 18
バイアンプ接続 20
ブリッジ接続 22
電源コードの接続 24

資料

一般仕様 26
ブロックダイヤグラム 27
音響特性 28
全高調波歪率（8 Ω） 28
全高調波歪率（4 Ω） 28
全高調波歪率（モノラル 8 Ω） 29
周波数特性 29
困ったときは 30
索引 32

付属品

同梱されている付属品をご確認ください。

- 電源コード
- システム接続ケーブル
- 取扱説明書（本書）
- 安全上のご注意（別冊）

警告

付属の電源コードをほかの機器に使用しないでください。

お手入れ

本機を長くお使いいただくために定期的にお手入れすることをおすすめします。

警告

- **電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取ってください。火災または感電の原因になります。**
- **清掃用や潤滑用などの可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。可燃性ガスが本機の内部に留まり、爆発や火災が発生するおそれがあります。**

注意

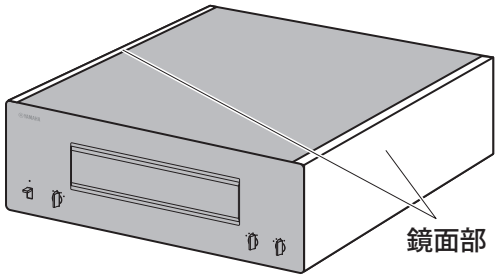
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色／変質する原因になります。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。
- ヤマハロゴ付近を強く拭くと、剥がれたり、布の毛が付着することがあります。

本体側面の鏡面部

ピアノ用クリーニングクロスのご使用をおすすめします。汚れがひどいときは、水に濡らして固く絞った柔らかい布をご使用ください。

鏡面部以外

柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。

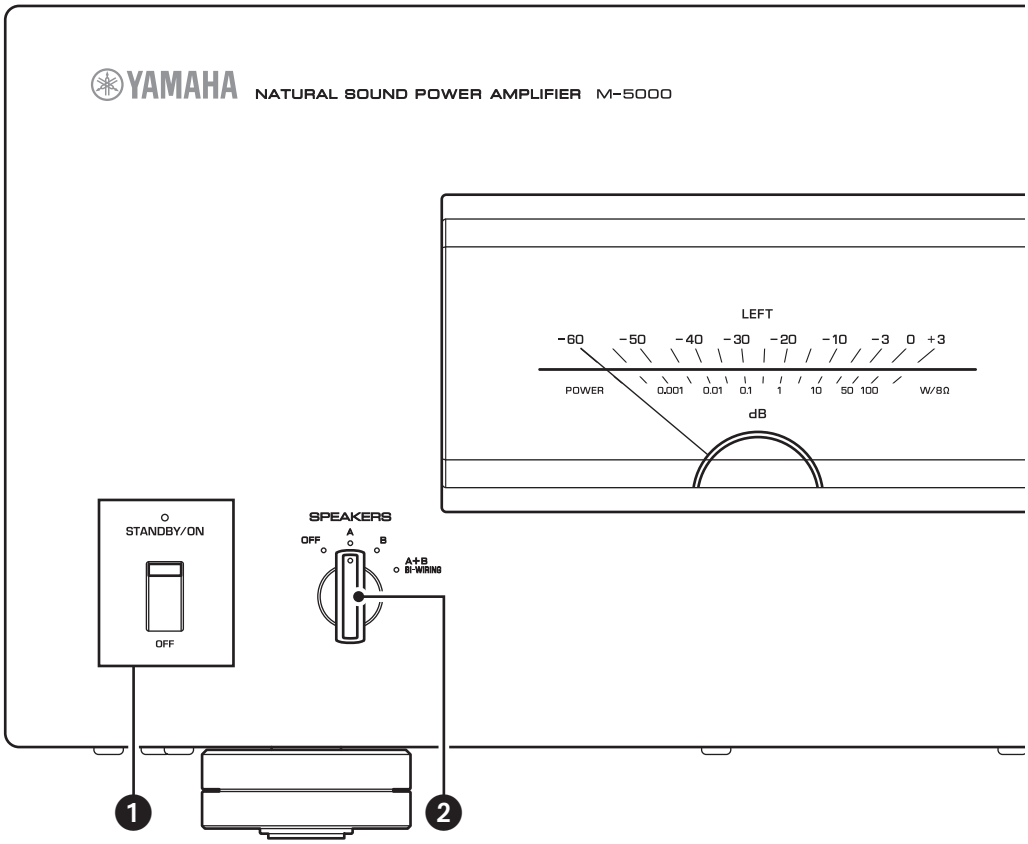


各部の名称と機能

フロントパネルとリアパネルの
各部の名称と機能について説明します。

M-5000

フロントパネル



❶ STANDBY/ON/OFF（電源）スイッチ / インジケーター

本機の電源のオンとオフを切り替えます。

STANDBY/ON：本機をオンにします。

OFF：本機をオフにします。

電源の状態	インジケーター
オン	点灯
スタンバイ	暗い点灯
オフ	消灯

スタンバイになるのは以下の場合です。

- オートスタンバイ機能がオンの場合に 8 時間操作しなかったとき
- 本機の TRIGGER IN 端子にトリガー接続している機器がオフしたとき

詳細については、「リアパネル」の「❼ AUTO POWER STANDBY スイッチ」（9 ページ）および「トリガー接続」（13 ページ）を参照してください。

メモ

本機の電源をオンにしてから音声が再生されるまでに数秒かかります。

注意

この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。STANDBY/ON/OFF（電源）スイッチを切った状態（電源ランプが消えている）でも微小電流が流れています。

❷ SPEAKERS セレクター

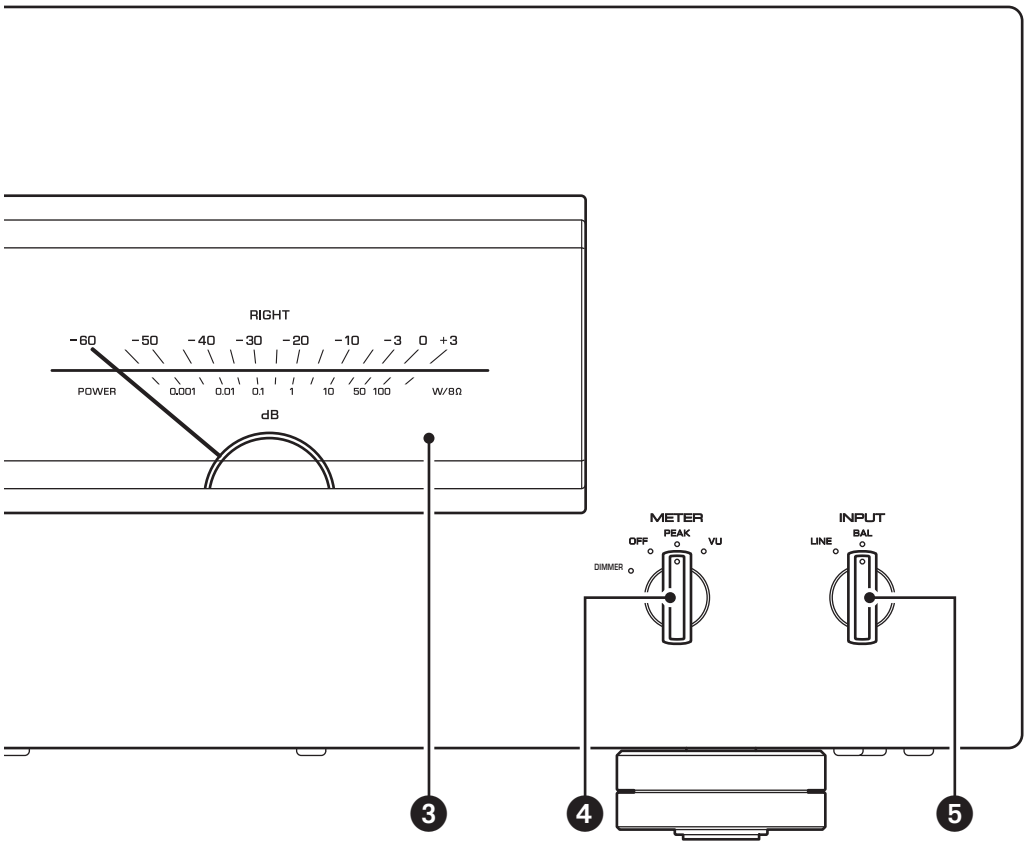
リアパネルの SPEAKERS 端子の A 端子と B 端子に接続された 2 組のスピーカーをオン / オフします。

OFF：スピーカーを 2 組ともオフします。

A：A 端子に接続したスピーカーのみオンします。

B：B 端子に接続したスピーカーのみオンします。

A+B/BI-WIRING：スピーカーを 2 組ともオンします。



注意

設定に対応したインピーダンスのスピーカーを使用してください。詳細は「基本的なスピーカー接続」（14 ページ）、「バイワイヤリング接続」（18 ページ）、「バイアンプ接続」（20 ページ）、「ブリッジ接続」（22 ページ）を参照してください。

❸ メーター表示（LEFT/RIGHT）

LEFT（左）チャンネルと RIGHT（右）チャンネルの音声出力レベルを表示します。

❹ METER セレクター

メーターの表示を OFF/PEAK/VU に切り替えます。

DIMMER：メーターの明るさを調節します。明るさが最高と最低（消灯）の間でゆっくり変化します。他の項目に切り替えると、切り替えたときの明るさで止まります。

OFF：メーターの動作と照明をオフにします。

PEAK：メーターの動作をピークレベルメーターにします。ピークレベルメーターは、音声出力の瞬間最高レベルを表示します。

VU：メーターの動作を VU レベルメーターにします。VU（Volume Unit）レベルメーターは、音声出力の実効値を表示し、人間の感覚に近い値を表示します。

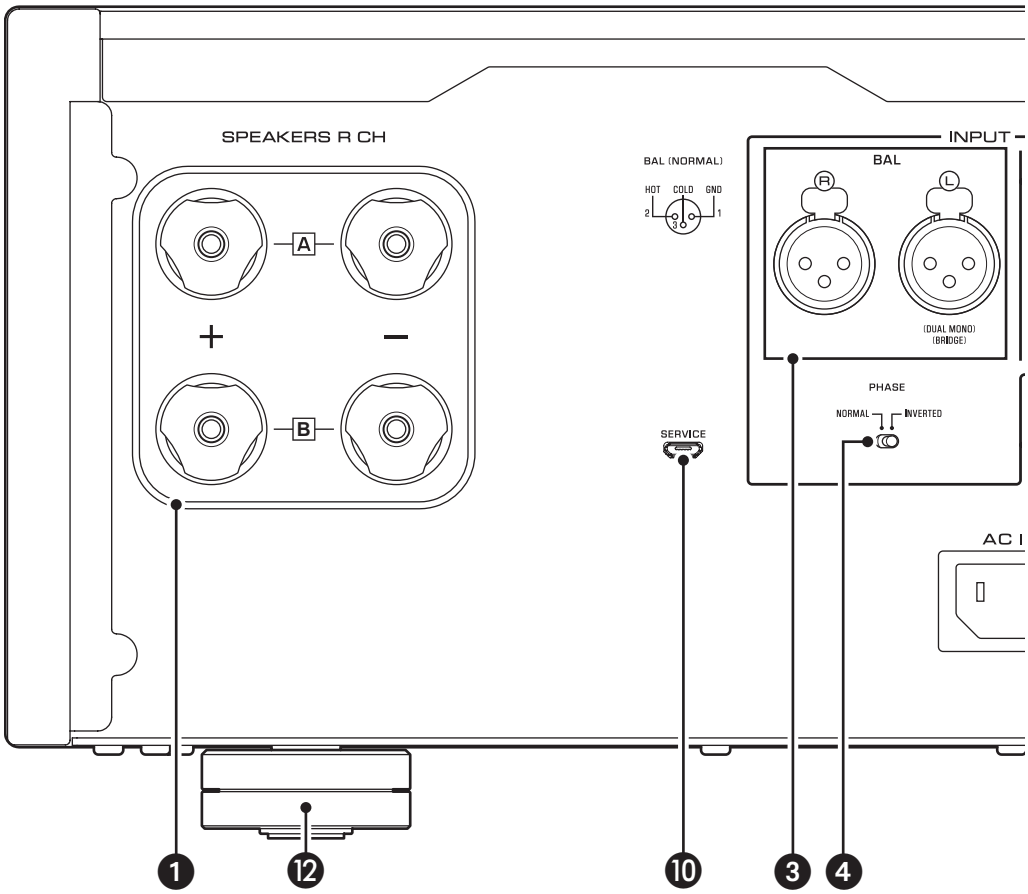
❺ INPUT セレクター

再生信号を入力する端子を選択します。

LINE：LINE 端子から入力した信号を再生します。

BAL：BAL 端子から入力した信号を再生します。

リアパネル



メモ

具体的な接続方法は「接続」（11 ページ）を参照してください。

❶ SPEAKERS R CH（スピーカー チャンネル）出力端子

❷ SPEAKERS L CH 出力端子

スピーカーケーブルでスピーカーと接続します。接続方法については「接続」（11 ページ）を参照してください。

❸ BAL（バランス）入力端子

XLR タイプのバランス入力端子です。プリアンプを接続します。接続するプリアンプに合わせて、PHASE スイッチを切り替えてください。

❹ PHASE（フェーズ）スイッチ

接続するプリアンプによって BAL 入力端子の HOT ピンの位置（極性）を切り替えます。詳細は「バランス接続とアンバランス接続」（10 ページ）を参照してください。

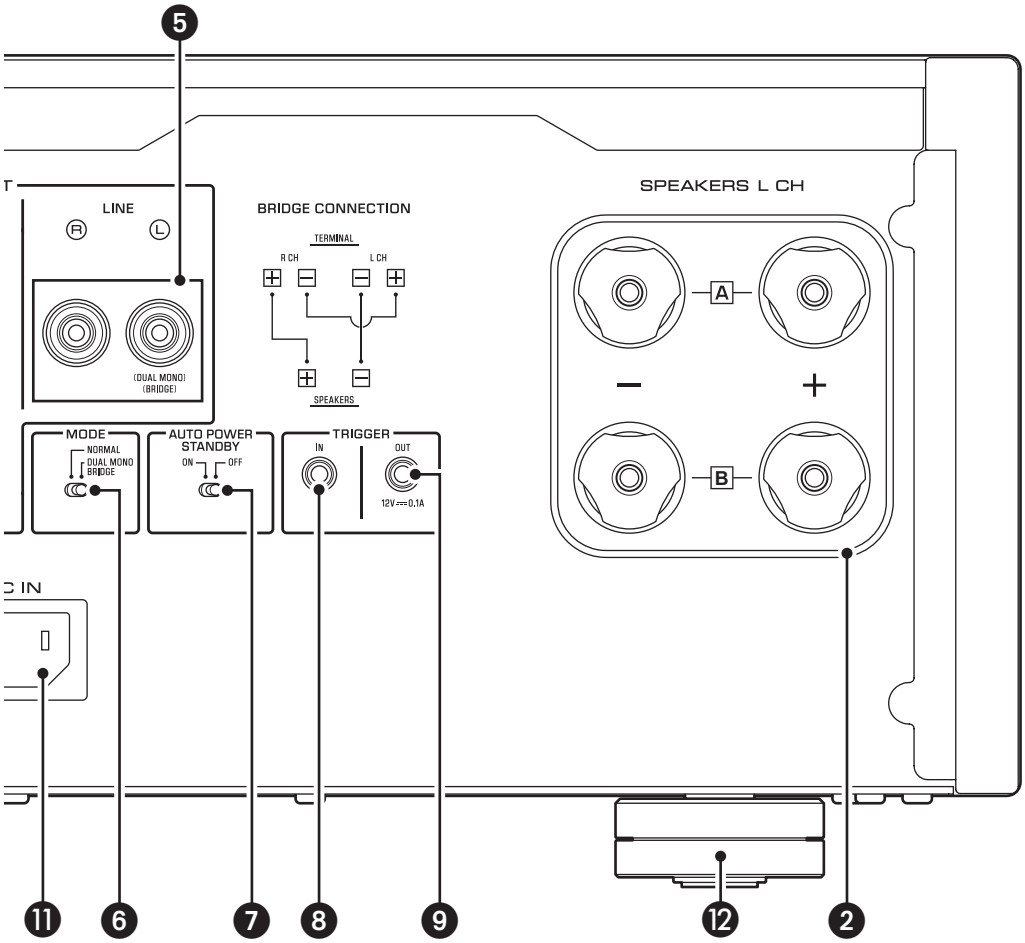
NORMAL：2 番ピンが HOT ピンになります。

INVERTED：3 番ピンが HOT ピンになります。

接続機器のバランス出力端子の HOT ピンの位置は、機器に付属している取扱説明書で確認してください。

❺ LINE（ライン）入力端子

RCA タイプのアンバランス入力端子です。プリアンプを接続します。



❻ MODE（モード）スイッチ

スピーカー出力のステレオ / モノラルを切り替えます。詳細は「基本的なスピーカー接続」（14 ページ）、「バイワイヤリング接続」（18 ページ）、「バイアンプ接続」（20 ページ）、「ブリッジ接続」（22 ページ）を参照してください。

NORMAL：ステレオアンプとして使用します。通常の設定です。

DUAL MONO/BRIDGE：モノラルアンプとして使用します。バイアンプ接続やブリッジ接続にする場合に設定します。

❼ AUTO POWER STANDBY（オート パワー スタンバイ）スイッチ

ON：電源がオンの場合、何も操作されない状態が 8 時間続いたとき、自動的にスタンバイになります。TRIGGER IN 端子にシステム接続ケーブルが接続されている場合は動作しません。

OFF：自動的に スタンバイになりません。

❽ TRIGGER IN（トリガー イン）端子

❾ TRIGGER OUT（トリガー アウト）端子

トリガー機能対応機器と接続して電源のオン / オフをコントロールします。詳細は「トリガー接続」（13 ページ）を参照してください。

❿ SERVICE（サービス）端子

製品検査用の端子です。

⓫ AC IN 端子

付属の電源コードを接続します。詳細は「電源コードの接続」（24 ページ）を参照してください。

⓬ 脚

本機が不安定な場合には、脚を回して高さを調整してください。

バランス接続とアンバランス接続

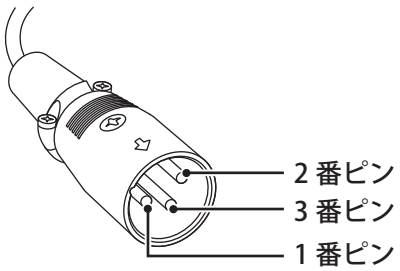
本機は、バランス接続の入力端子（BAL 入力端子）およびアンバランス接続の入力端子（LINE 入力端子）を装備しています。

注意

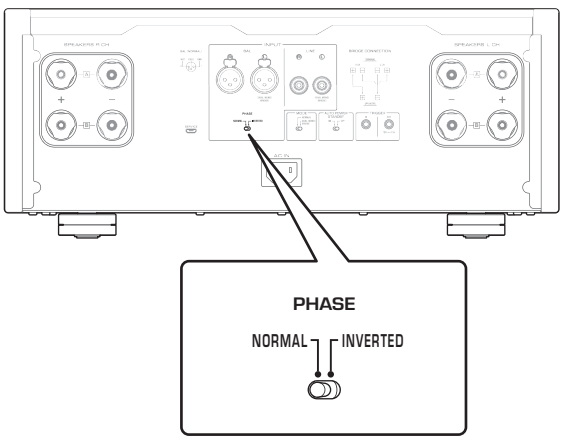
同じ 2 つの機器間でバランス接続とアンバランス接続を同時に使用しないでください。アースがループしてノイズの原因になります。

バランス接続

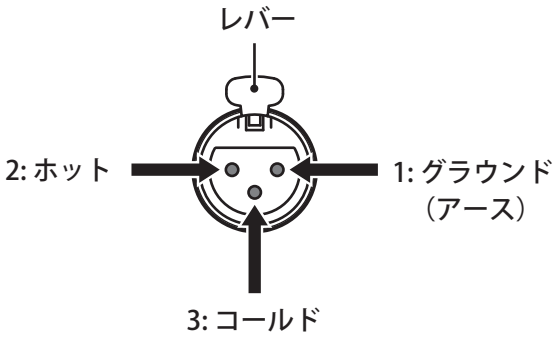
バランス接続は外部からのノイズに強い接続方法です。バランス接続には XLR コネクター（オス）が付いているケーブルを使用します。接続の際には必ずピンどうしを合わせ、XLR コネクター（オス）を「カチッ」と音がするまで差し込みます。接続を外す際は、BAL 端子のレバーを押しながら XLR コネクター（オス）を抜きます。



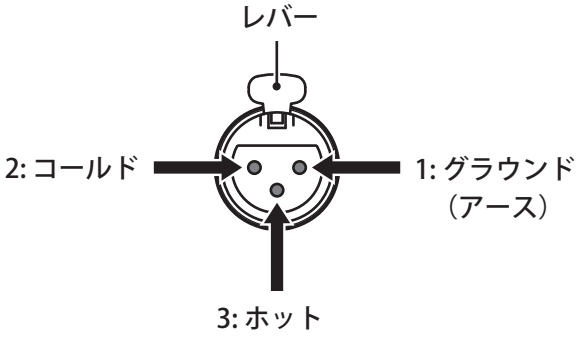
バランス接続の場合、正しい極性で使用する必要があります。極性はリアパネルの PHASE スイッチで切り替えます。



PHASE スイッチが「NORMAL」の場合、2 番ピンがホットピンになります。



PHASE スイッチが「INVERTED」の場合、3 番ピンがホットピンになります。

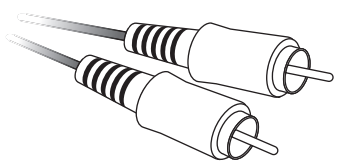


メモ

ヤマハ製のプレーヤーやプリアンプは NORMAL（2 番ホットピン）です。

アンバランス接続

アンバランス接続には RCA タイプのピンケーブルを使用してください。極性はありません。



接　続

プリアンプやスピーカーとの接続について説明します。

⚠ 注意

接続は、すべての電源を切った上で行ってください。

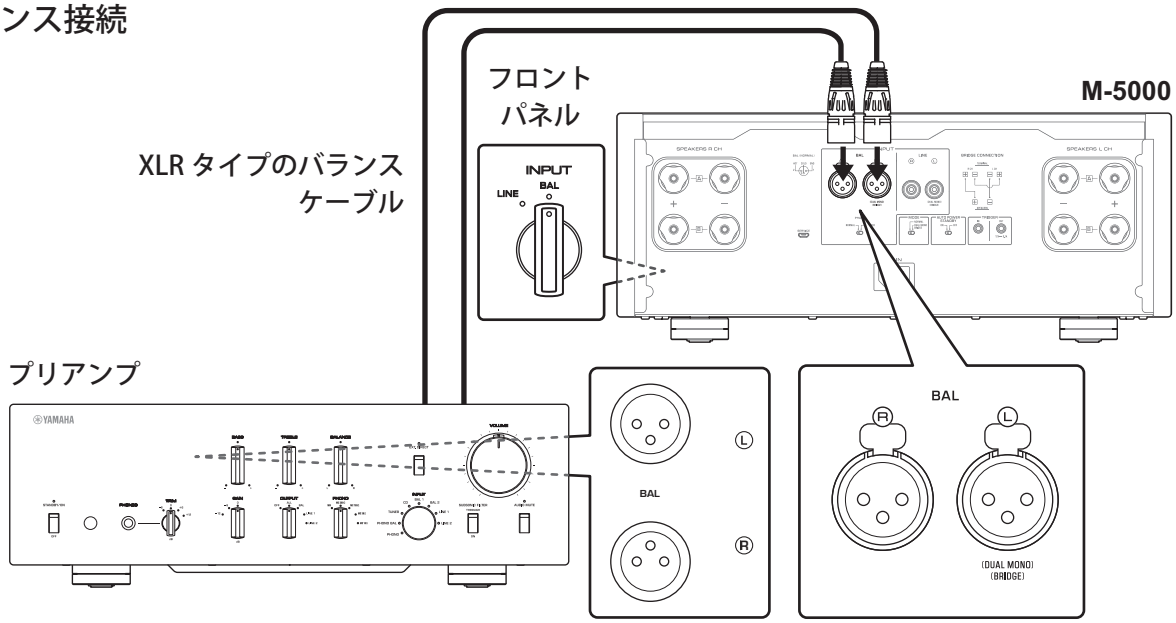
注意

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。

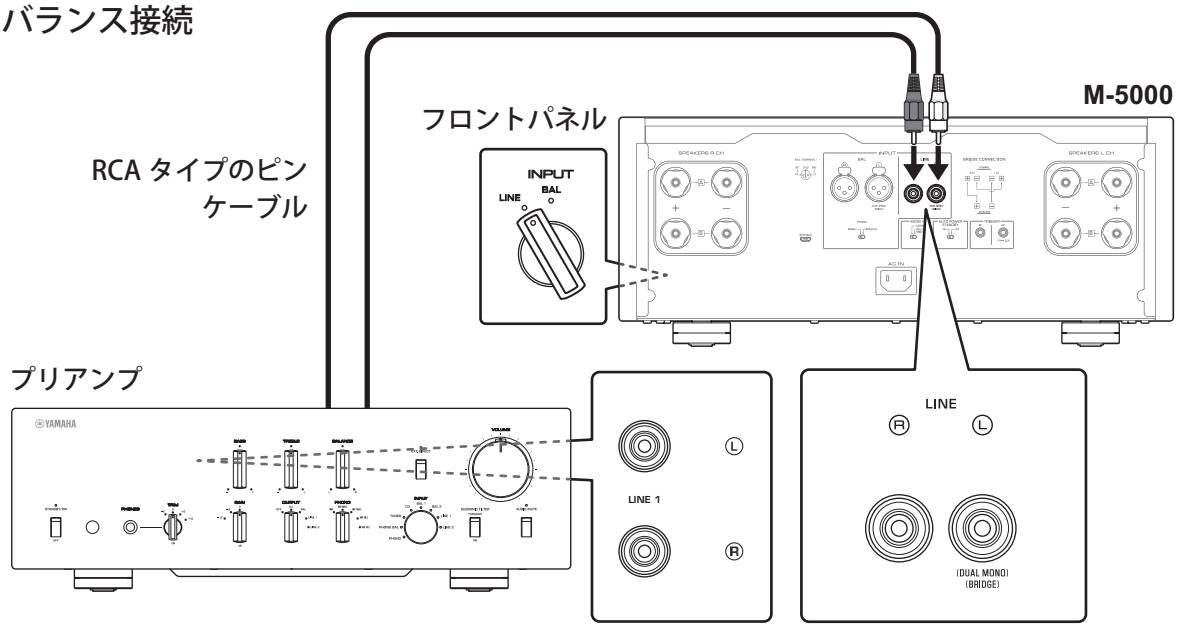
プリアンプとの接続

入力端子をプリアンプに接続します。プリアンプとの接続には XLR タイプのバランスケーブルまたは RCA タイプのアンバランスケーブルを使用します。

バランス接続



アンバランス接続



注意

本機の音量は固定されています。音量調整機能がない機器を入力端子に接続しないでください。大きな音で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。

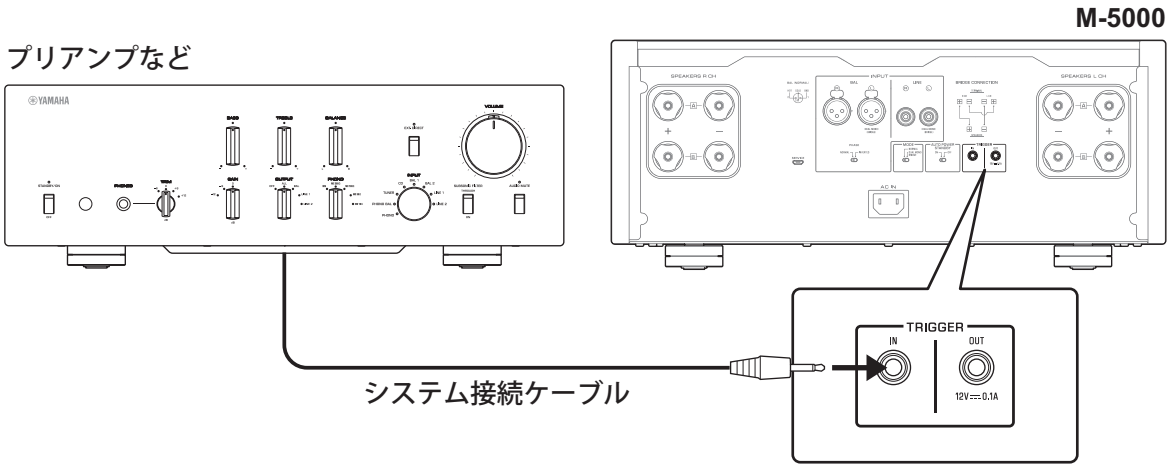
メモ

- バランス接続とアンバランス接続のどちらも使用できる場合は、バランス接続を使用してください。
- 同じ 2 つの機器間でバランス接続とアンバランス接続を同時に使用しないでください。アースがループしてノイズの原因になります。

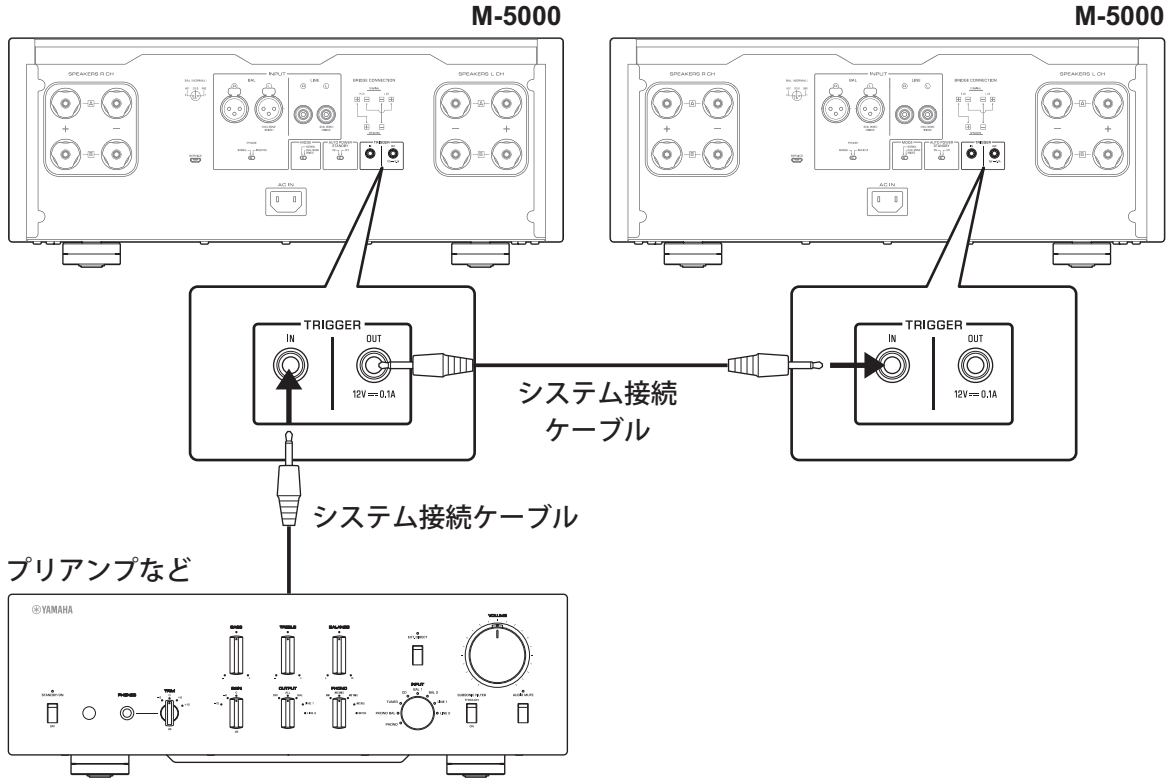
トリガー接続

ヤマハ製プリアンプやAVレシーバーなどの接続機器の電源オン/オフに連動させて本機をコントロールできます。付属のシステム接続ケーブルを使って下図のように接続します。

接続例（M-5000 を 1 台使用している場合）



接続例（M-5000 を 2 台使用している場合）



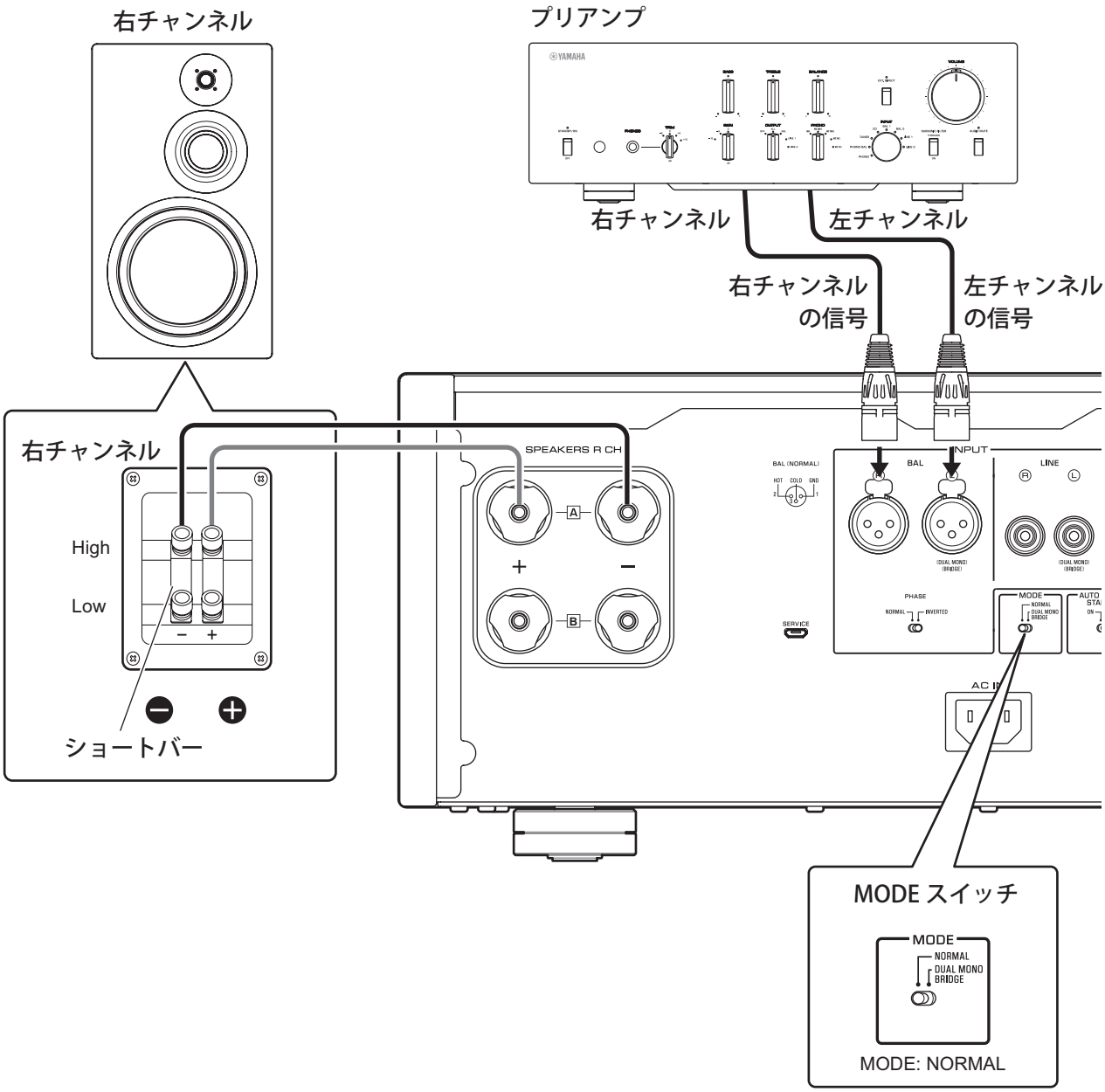
トリガー接続で本機をコントロールするには、STANDBY/ON/OFF（電源）スイッチを「STANDBY/ON」にします。

接続機器の電源をオンにすることによって、本機の電源をオンにすることができます。接続機器の電源をオフにすると本機は連動してスタンバイになります。

メモ

本機の電源スイッチが OFF のときは連動しません。

基本的なスピーカー接続



1 接続している機器も含め、電源が入っている場合は、すべての機器の電源を切る。

2 リアパネルの MODE スイッチを「NORMAL」にする。

3 フロントパネルの SPEAKERS セレクターを「A」「B」「A+B BI-WIRING」から選ぶ。

接続図は「A」を選んだ状態です。

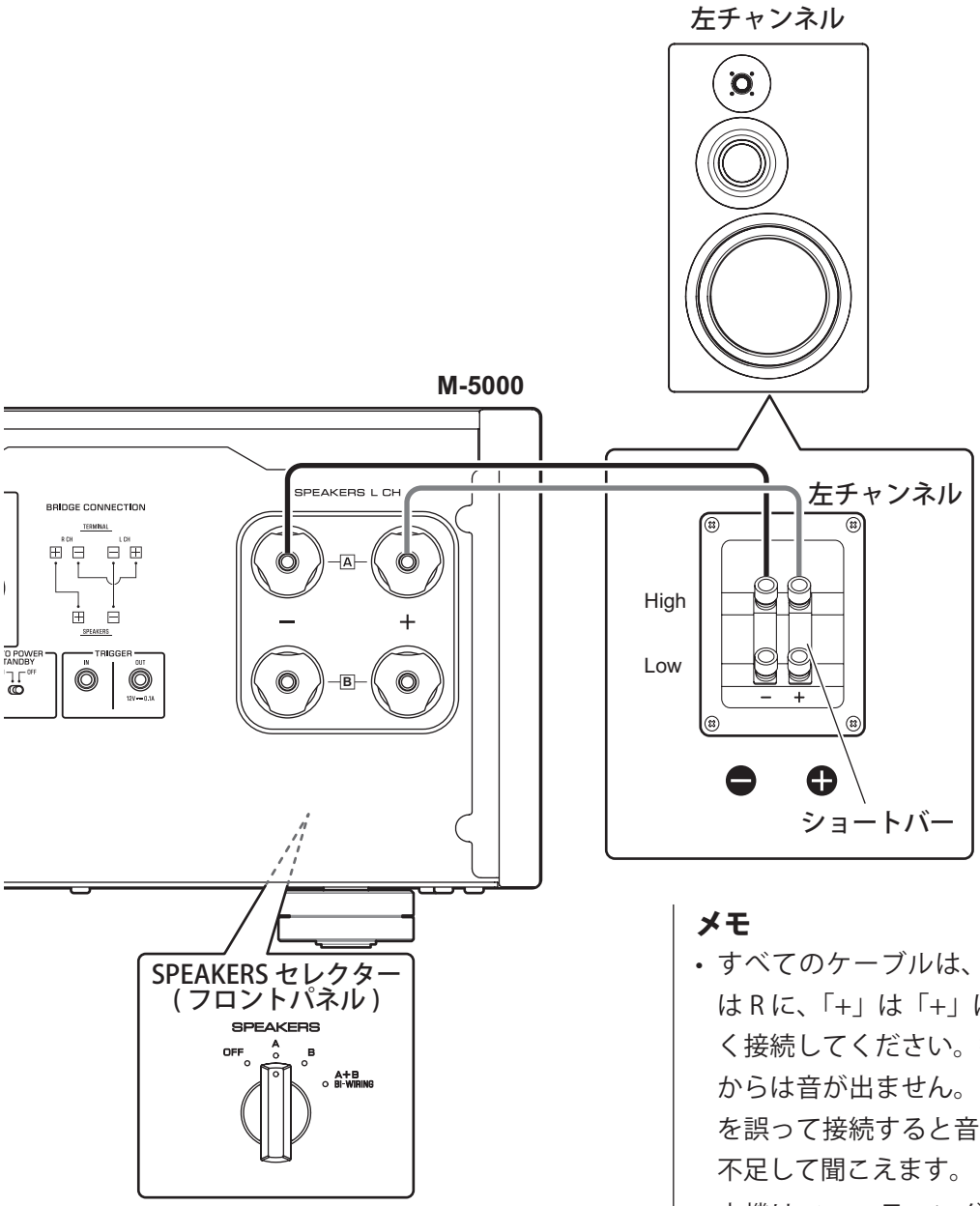
4 パワーアンプとスピーカーの＋端子、パワーアンプとスピーカーの－端子をそれぞれ接続する。

注意

以下の表のインピーダンスのスピーカーを接続してください。

スピーカーインピーダンス

SPEAKERS セレクター	A	B	A+B
基本的な接続 / バイワイヤリング接続	4 Ω以上		8 Ω以上
バイアンプ接続	4 Ω以上		8 Ω以上
ブリッジ接続	8 Ω以上		16 Ω以上



注意

電源を再び入れる際は、入力機器のボリュームを絞ってから入力機器の電源を入れてください。

注意

- スピーカーケーブルの裸線部は、他のスピーカーケーブルの裸線部または本機の金属部分とは接触させないでください。本機やスピーカーが損傷することがあります。
- アクティブサブウーファーを本機に接続しないでください。サブウーファーはプリアンプに接続してください。

メモ

- すべてのケーブルは、L（左）はLに、R（右）はRに、「+」は「+」に、「−」は「−」に正しく接続してください。接続を誤るとスピーカーからは音が出ません。また、スピーカーの極性を誤って接続すると音が不自然になり、低音が不足して聞こえます。
- 本機はフローティングバランスアンプなので、下記のように接続できません。
  - 左右チャンネルの「+」端子どうしや「−」端子どうしを接続する（図1）
  - 左チャンネルの「−」端子と右チャンネルの「−」端子を逆接続（クロス接続）する（図2）
  - 左右チャンネルの「−」端子と本機リアパネルの金属部分とを接続または接触させる

図1

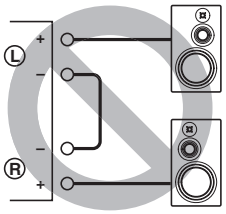
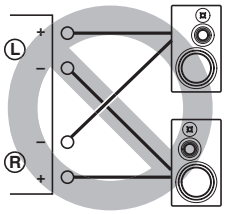


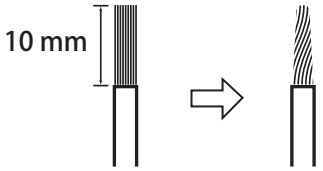
図2



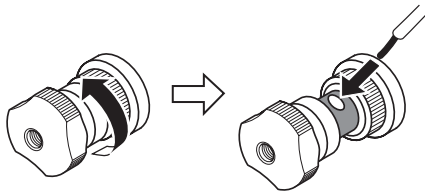
スピーカーケーブルの接続方法

通常のスピーカーケーブルで接続する

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約 10 mm はがし、芯線をしっかりとよじる。

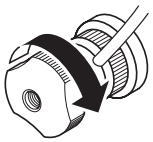


2 SPEAKERS 端子のつまみを左に回してねじをゆるめ、横の穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。



スピーカーケーブル
差し込み穴の径 :
6.0 mm

3 つまみを右に回して、締め付ける。



⚠ 注意

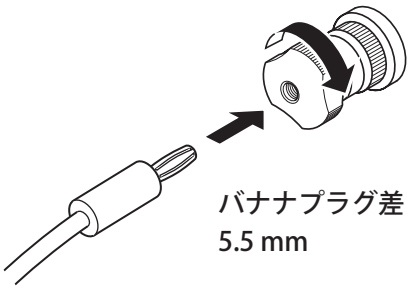
- つまみを左に回し過ぎると、つまみが本機から外れます。子供が誤って外れたつまみを飲み込まないように注意してください。
- 本機の電源が ON のときにスピーカー端子に触れないでください。感電するおそれがあります。

注意

スピーカー端子が金属製ラックに触れるとショートし、本機が故障するおそれがあります。スピーカー端子がラックに触れないように十分な距離を取って設置してください。

バナナプラグのケーブルで接続する

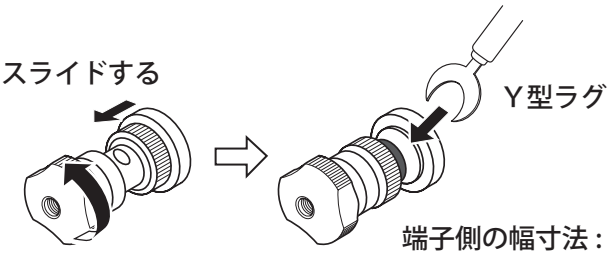
バナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



バナナプラグ差し込み穴の径：
5.5 mm

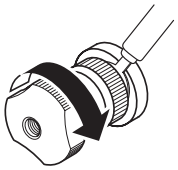
Y型ラグのケーブルで接続する

1 スピーカー端子のつまみを左に回してねじをゆるめ、リング部と基部の間にY型ラグをはさむ。

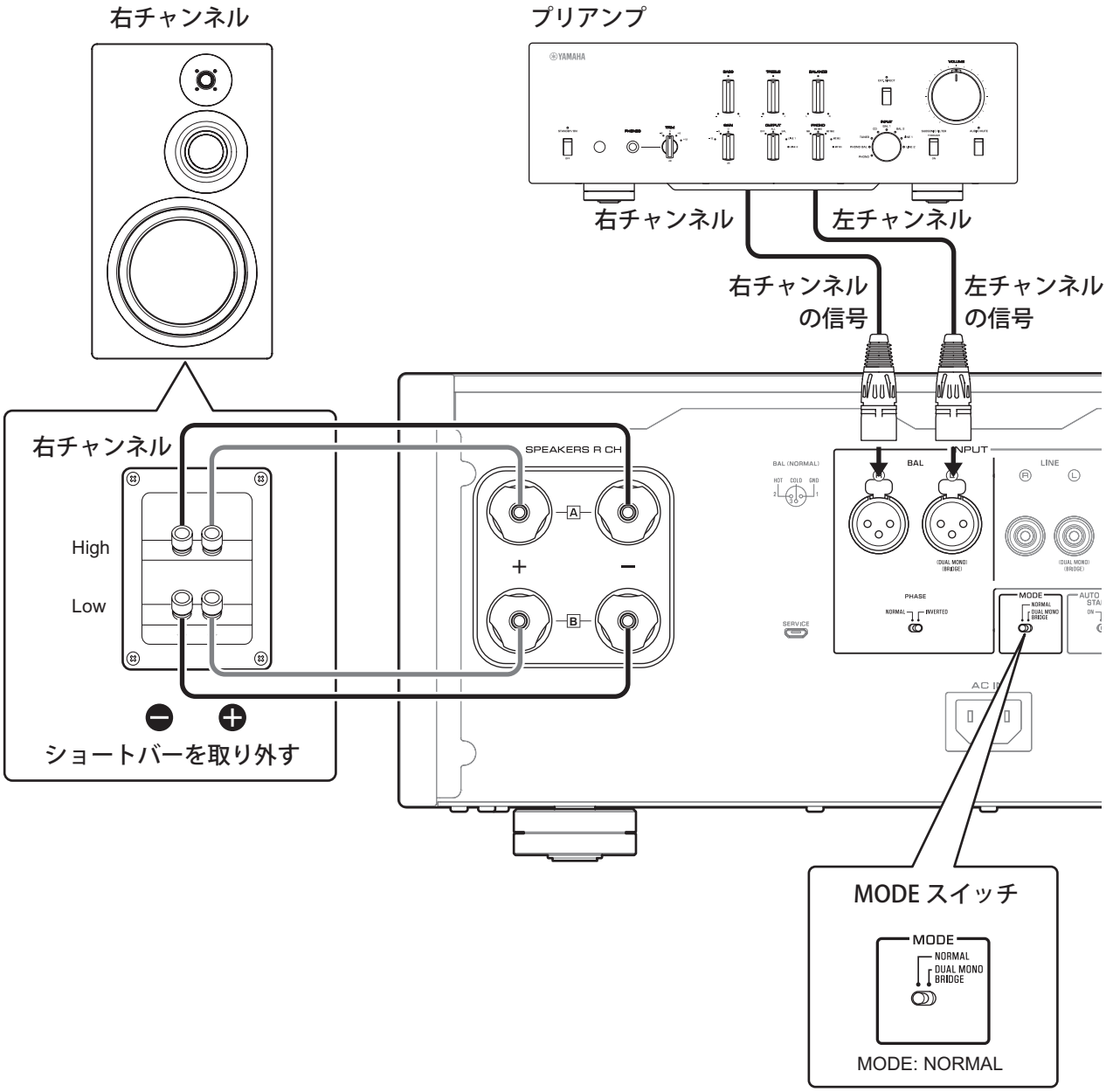


端子側の幅寸法：
5.0 mm

2 つまみを右に回して、締め付ける。



バイワイヤリング接続



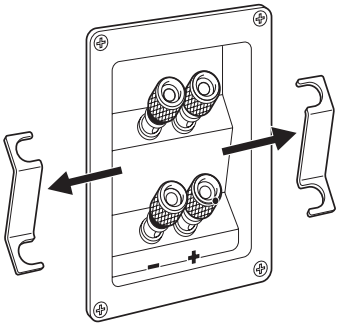
バイワイヤリング接続では、低域用スピーカーユニット（ウーファー）と中高域用スピーカーユニット（ツイーター）を違うケーブルで接続します。ケーブルを分けるとウーファーのボイスコイルで発生する逆起電力が中高域のツイーターに流れ込まなくなるため、低音域と高音域の相互干渉が減り、音質が向上するスピーカーもあります。

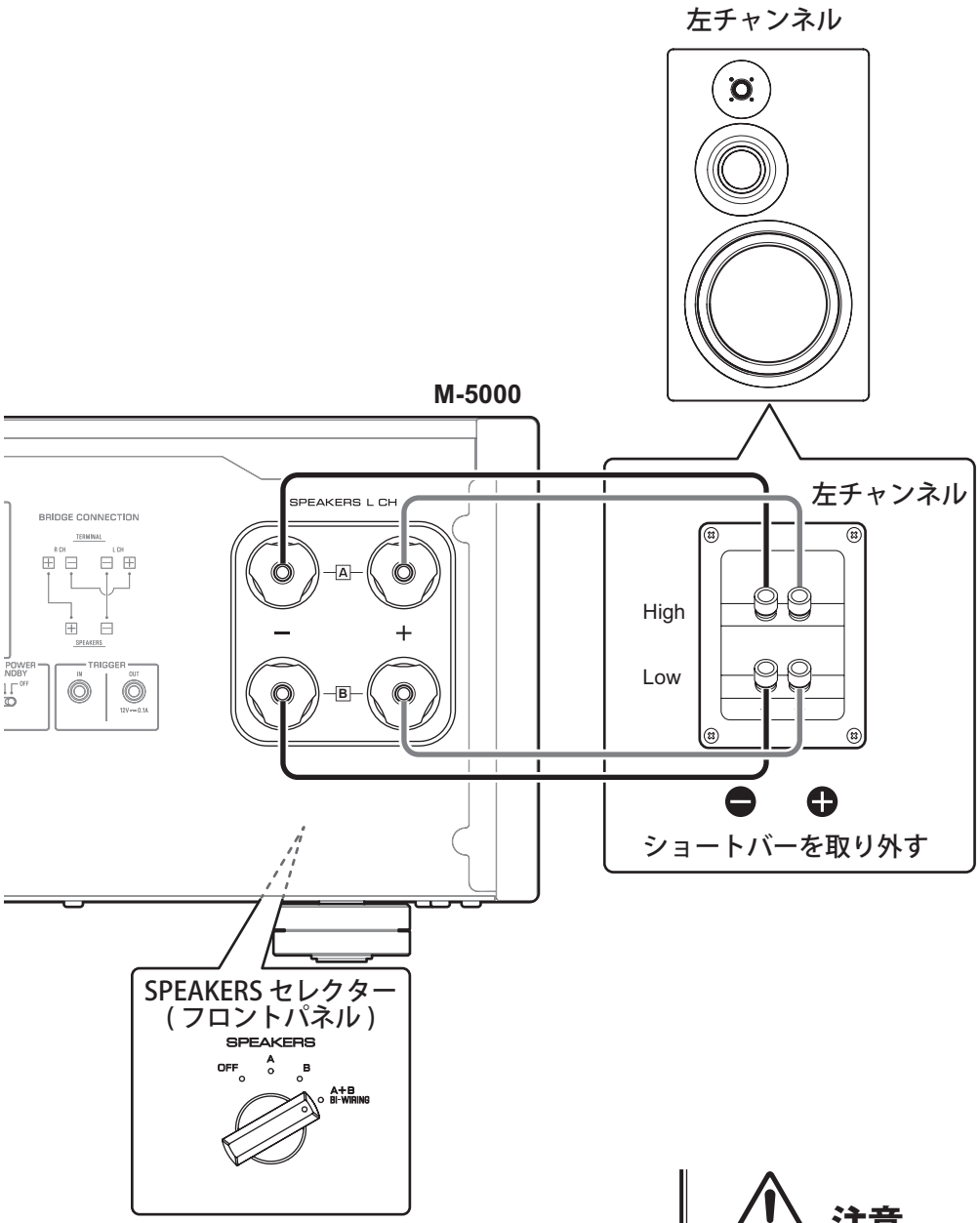
2 組（4 個）の接続端子があり、低音域と中高音域に端子が分離可能なスピーカーを使用します。

1 接続している機器も含め、電源が入っている場合は、すべての機器の電源を切る。

2 スピーカーのショート用のバーやブリッジを取り外す。

LPF（ローパスフィルター）と HPF（ハイパスフィルター）のクロスオーバーを分離します。





3 パワーアンプとスピーカーを接続する。

スピーカーの中高音域用端子からパワーアンプの SPEAKERS A 端子、スピーカーの低音域用端子からパワーアンプの SPEAKERS B 端子に、対応する各チャンネルを接続します。

4 リアパネルの MODE スイッチを「NORMAL」に設定する。

5 フロントパネルの SPEAKERS セレクターを「A+B BI-WIRING」に設定する。

⚠ 注意

以下の表のインピーダンスのスピーカーを接続してください。

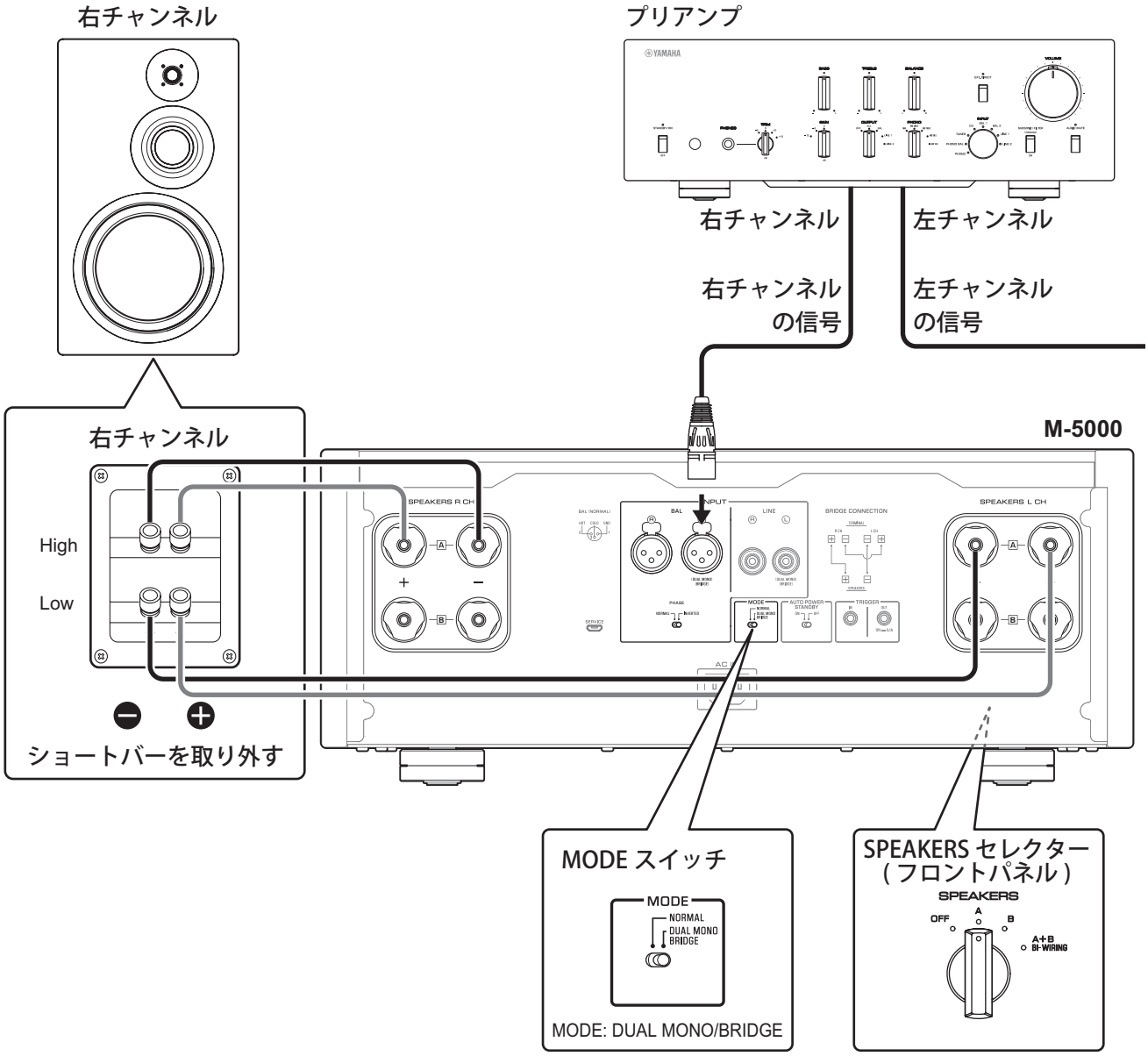
スピーカーインピーダンス

SPEAKERS セレクター	A	B	A+B
基本的な接続 / バイワイヤリング接続	4 Ω以上		8 Ω以上
バイアンプ接続	4 Ω以上		8 Ω以上
ブリッジ接続	8 Ω以上		16 Ω以上

⚠ 注意

電源を再び入れる際は、入力機器のボリュームを絞ってから入力機器の電源を入れてください。

バイアンプ接続



バイアンプ接続のステレオシステムでは 2 台の M-5000 を使用します。

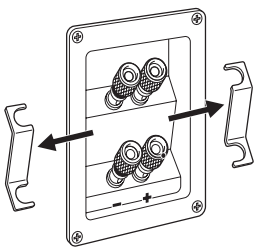
1 台の M-5000 は 2 つのアンプを内蔵しています。それぞれのアンプを低域用スピーカーユニット（ウーファー）と中高域用スピーカーユニット（ツイーター）に接続します。2 組（4 個）の接続端子があり、低音域と中高音域に端子が分離可能なスピーカーを使用します。ウーファーからの逆起電力が引き起こす悪影響を回避することで、音質が向上するスピーカーもあります。

M-5000 への信号入力は、2 台とも L チャンネルの入力端子に接続します。

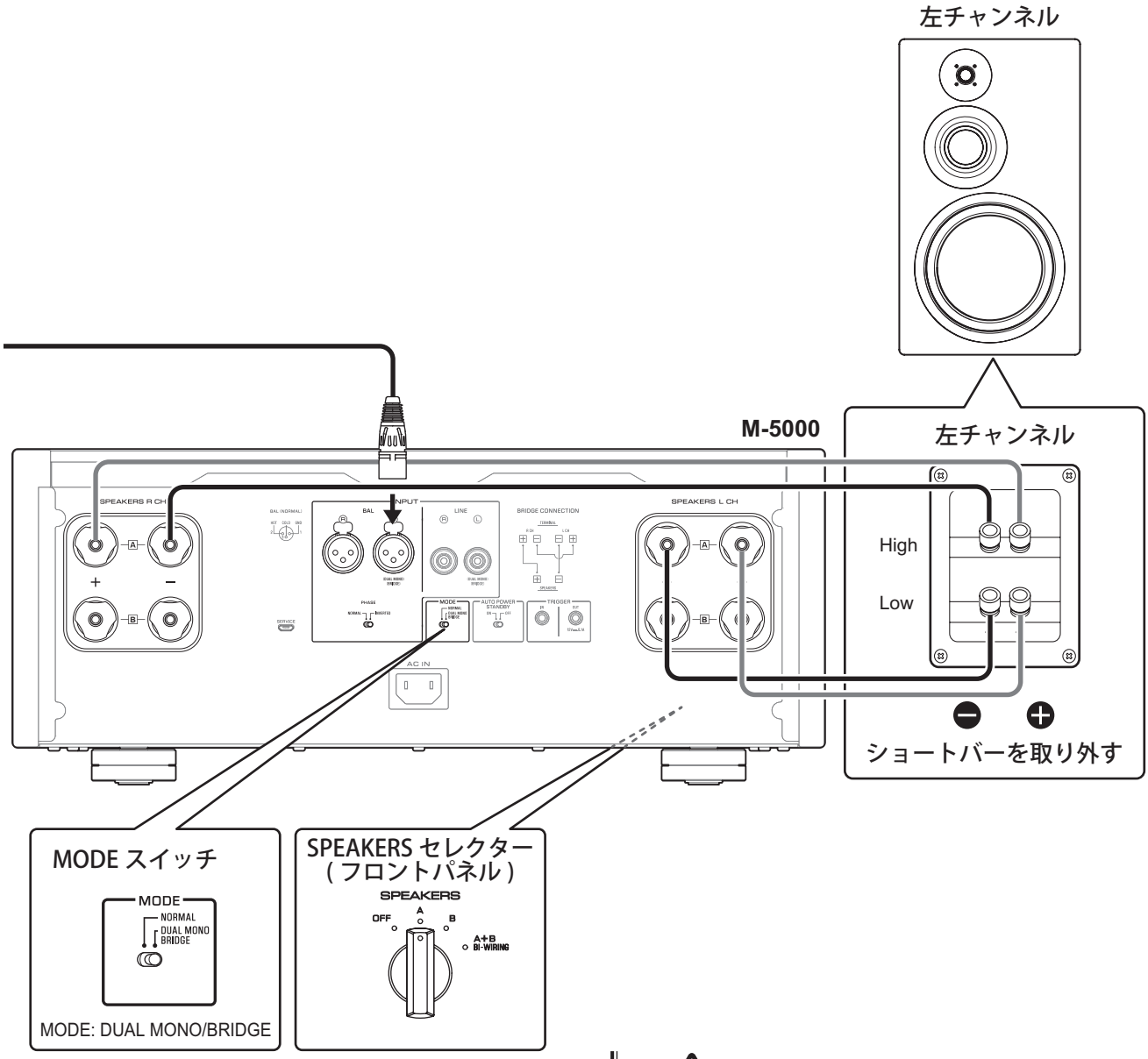
1 **接続している機器も含め、電源が入っている場合は、すべての機器の電源を切る。**

2 **スピーカーのショート用のバーやブリッジを取り外す。**

LPF（ローパスフィルター）と HPF（ハイパスフィルター）のクロスオーバーを分離します。



3 **リアパネルの MODE スイッチを「DUAL MONO/BRIDGE」にする。**



4 フロントパネルの SPEAKERS セレクターを「A」「B」「A+B BI-WIRING」から選ぶ。

接続図は「A」を選んだ状態です。

5 パワーアンプ（本機）とスピーカーを接続する。

SPEAKERS セレクターを「A」にしたときは、スピーカーの中高音域用端子および低音域用端子からパワーアンプの SPEAKERS R CH および SPEAKERS L CH の A 端子に接続します。

⚠ 注意

以下の表のインピーダンスのスピーカーを接続してください。

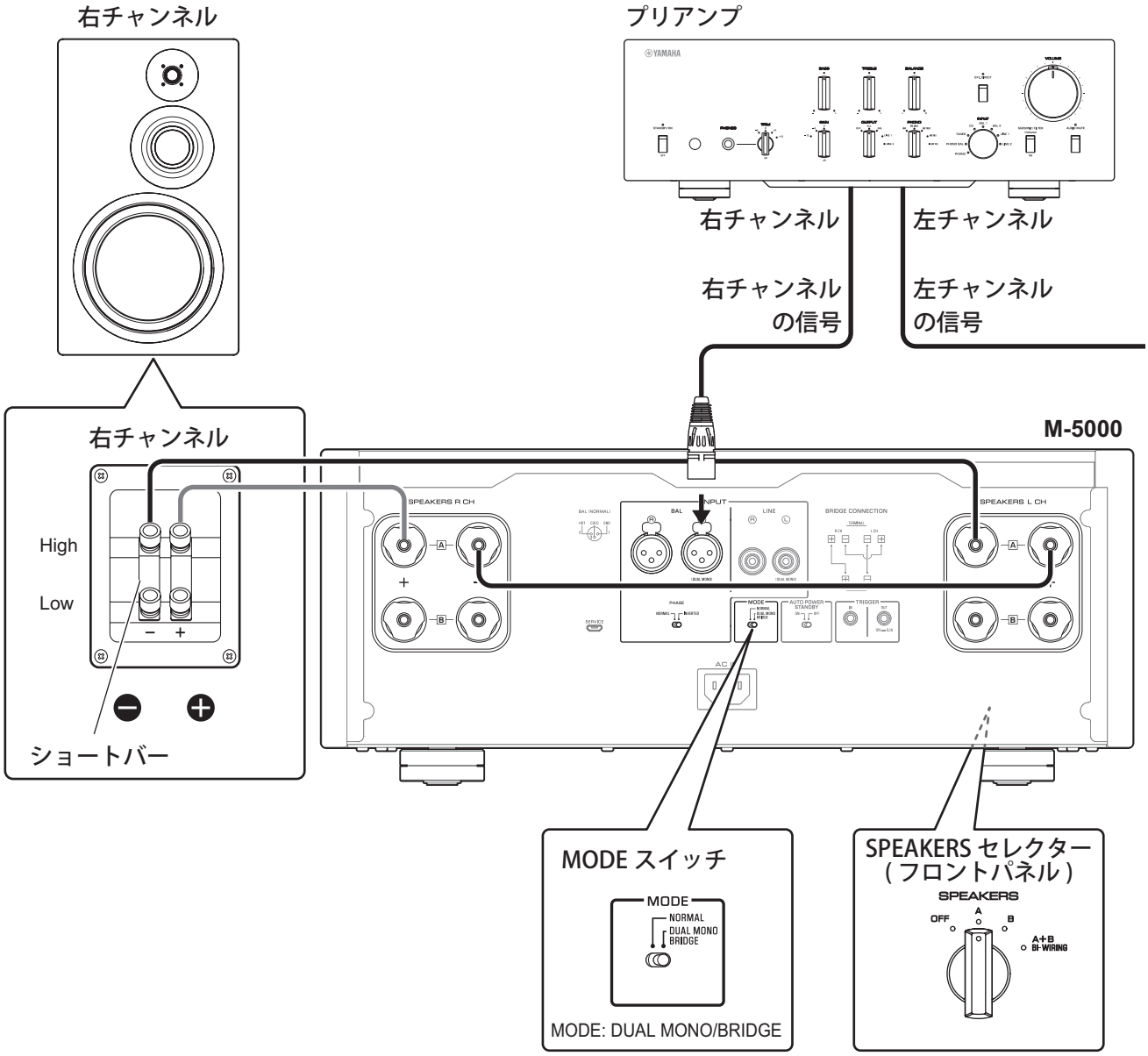
スピーカーインピーダンス

SPEAKERS セレクター	A	B	A+B
基本的な接続 / バイワイヤリング接続	4 Ω以上		8 Ω以上
バイアンプ接続	4 Ω以上		8 Ω以上
ブリッジ接続	8 Ω以上		16 Ω以上

⚠ 注意

電源を再び入れる際は、入力機器のボリュームを絞ってから入力機器の電源を入れてください。

ブリッジ接続



ブリッジ接続では、M-5000 をモノラルアンプとして使用します。ステレオシステムでは 2 台の M-5000 を使用します。

L チャンネルの＋端子と R チャンネルの－端子を接続してください。接続には、スピーカーケーブルと同じ材質で長さが 1.0m 以内、断面積が 1.0mm^2 以上のケーブルを束ねずに接続してください。

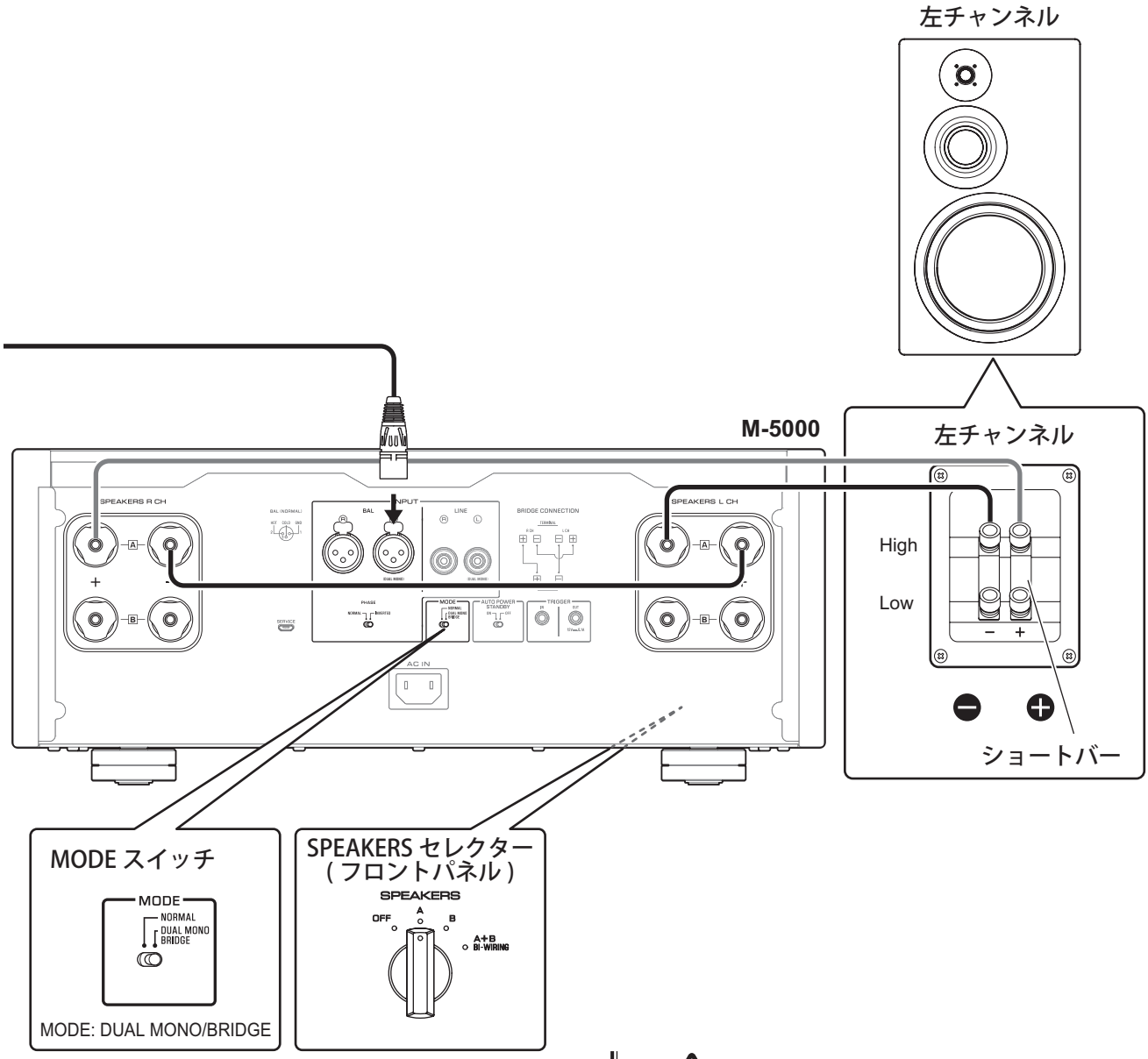
M-5000 への信号入力は、2 台とも L チャンネルの入力端子に接続します。

注意

増幅度が 2 倍になるため、プリアンプで適切な音量にしてください。GAIN セレクターを装備しているヤマハ製プリアンプを使用する場合は、GAIN セレクターで調節すると、通常と同じ音量レベルで使用できます。

1 **接続している機器も含め、電源が入っている場合は、すべての機器の電源を切る。**

2 **リアパネルの MODE スイッチを「DUAL MONO/BRIDGE」にする。**



3 フロントパネルの SPEAKERS セレクターを「A」「B」「A+B BI-WIRING」から選ぶ。

接続図は「A」を選んだ状態です。

4 パワーアンプ（本機）の L チャンネルの＋端子と R チャンネルの－端子をスピーカーケーブルで接続する。

5 パワーアンプ（本機）の R チャンネルの＋端子とスピーカーの＋端子、パワーアンプ（本機）の L チャンネルの－端子とスピーカーの－端子をそれぞれ接続する。

注意

以下の表のインピーダンスのスピーカーを接続してください。

スピーカーインピーダンス

SPEAKERS セレクター	A	B	A+B
基本的な接続 / バイワイヤリング接続	4 Ω以上		8 Ω以上
バイアンプ接続	4 Ω以上		8 Ω以上
ブリッジ接続	8 Ω以上		16 Ω以上

注意

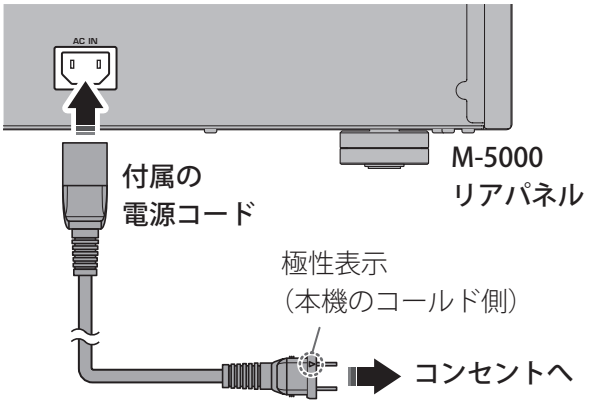
電源を再び入れる際は、入力機器のボリュームを絞ってから入力機器の電源を入れてください。

電源コードの接続

すべての接続が終了したら、STANDBY/ON/OFF（電源）スイッチが切ってあること確認したうえで、電源コードを本機の AC IN 端子に差し込み、家庭用 AC100 V、50/60 Hz のコンセントに電源プラグを接続します。

メモ

- 付属の電源コードの▽マークは極性（本機のコールド側）を示しています。
- 接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。



警告

- **下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
  - 電源コード／プラグが傷んだ場合
  - 機器から異臭、異音や煙が出た場合
  - 機器の内部に異物や水が入った場合
  - 使用中に音が出なくなった場合
  - 機器に亀裂、破損がある場合

  そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。
- **落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らないでください。感電の原因になります。**
- **電源はこの機器に表示している電源電圧で使用してください。誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。**
- **電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードをほかの機器に使用しないでください。**
  火災、やけど、または故障の原因になります。
- **電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続してください。**
  万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。
- **雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
  火災や故障の原因になります。
- **長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。**
  火災や故障の原因になります。

注意

- **電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しないでください。火災、感電、やけどの原因になります。**
- **電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜いてください。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。**
- **電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込んでください。差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。**

注意

この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。STANDBY/ON/OFF（電源）スイッチを切った状態（電源ランプが消えている）でも微小電流が流れています。

資　料

M-5000

一般仕様

定格出力（20Hz～20kHz、0.07% THD）

2チャンネル同時駆動、8Ω .... 100W + 100W
2チャンネル同時駆動、4Ω .... 200W + 200W
モノラル駆動、8Ω 400W

ダイナミックパワー

8Ω ..... 125W + 125W
6Ω ..... 170W + 170W
4Ω ..... 250W + 250W
2Ω ..... 500W + 500W

実用最大出力（JEITA、1kHz、10% THD）

8Ω ..... 135W + 135W
4Ω ..... 270W + 270W

出力帯域幅（MAIN L/R 動作時、0.1% THD、45W）

8Ω ..... 10Hz～50kHz

ダンピングファクター（1kHz）

8Ω ..... ≧300

入力感度/入力インピーダンス
（1kHz、100W/8Ω 換算）

BAL 2.0Vrms/47kΩ
LINE 1.0Vrms/47kΩ

最大許容入力電圧（1kHz、0.5% THD）

BAL 2.20Vrms
LINE 1.10Vrms

周波数特性

5Hz～100kHz .....+0 / −3dB
20Hz～20kHz ..... +0 / −0.3dB

全高調波歪率（20Hz～20kHz）

2チャンネル同時駆動、
LINE→SPEAKERS、50W/8Ω 0.035%
2チャンネル同時駆動、
BAL→SPEAKERS、50W/8Ω 0.035%
モノラル駆動、
LINE→SPEAKERS、200W/8Ω 0.05%
モノラル駆動、
BAL→SPEAKERS、200W/8Ω 0.05%

チャンネルセパレーション（入力1.0kΩ終端）

1kHz/10kHz ..... ≧90dB/≧70dB

S/N比
（IHF-A Network、入力1.0kΩ短絡、基準値200W/4Ω）

..... 110dB

残留ノイズ（IHF-A Network）

BAL ..... 40 μ Vrms
LINE ..... 50 μ Vrms

メーター階級

..... 2.5級

電源電圧

..... AC100V、50Hz/60Hz

消費電力

.....400W

待機時消費電力

オフ..... 0.1W
スタンバイ..... 0.2W

寸法（幅×高さ×奥行）

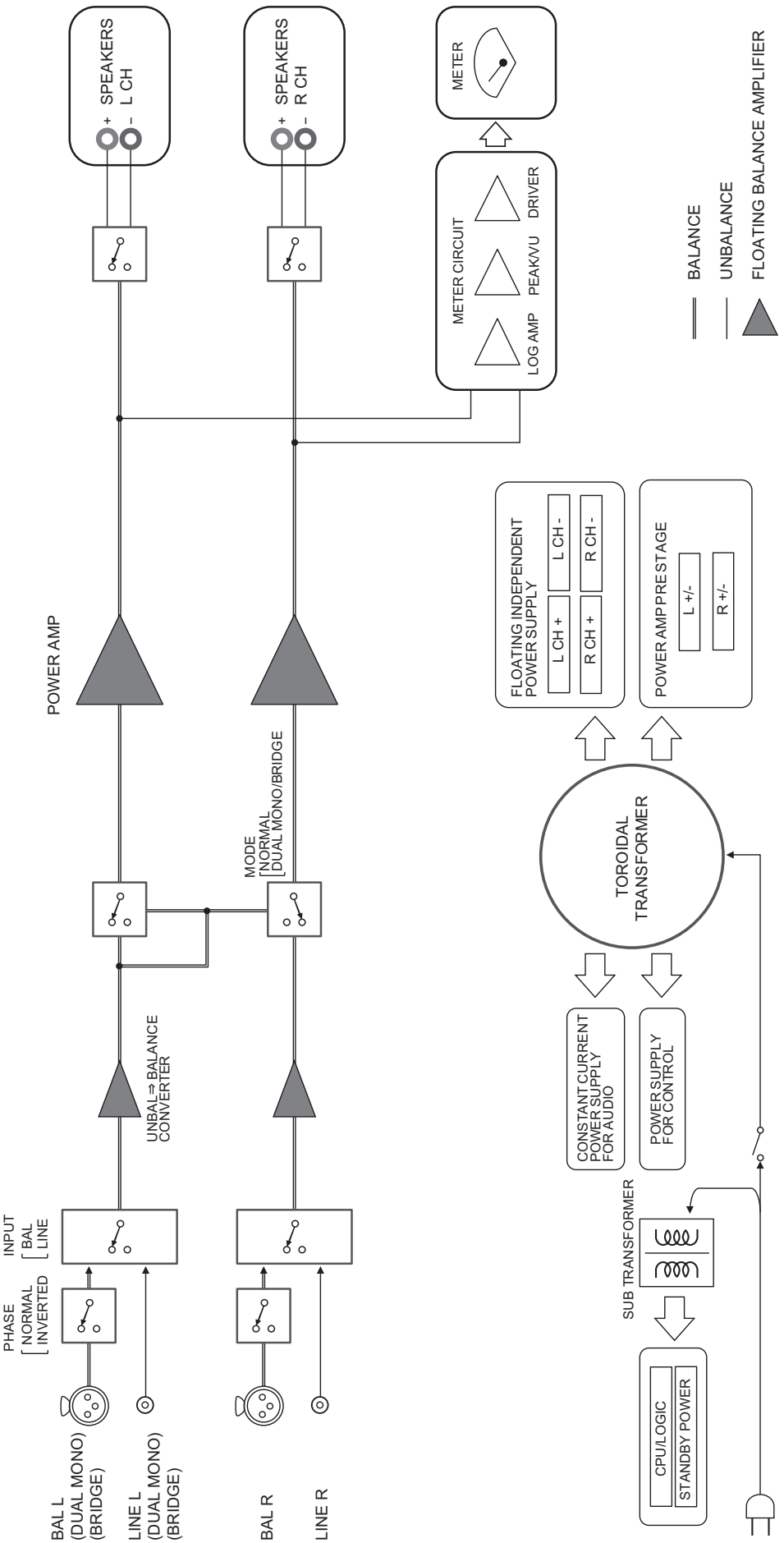
.....435 × 180 × 464mm

質量

..... 26.9kg

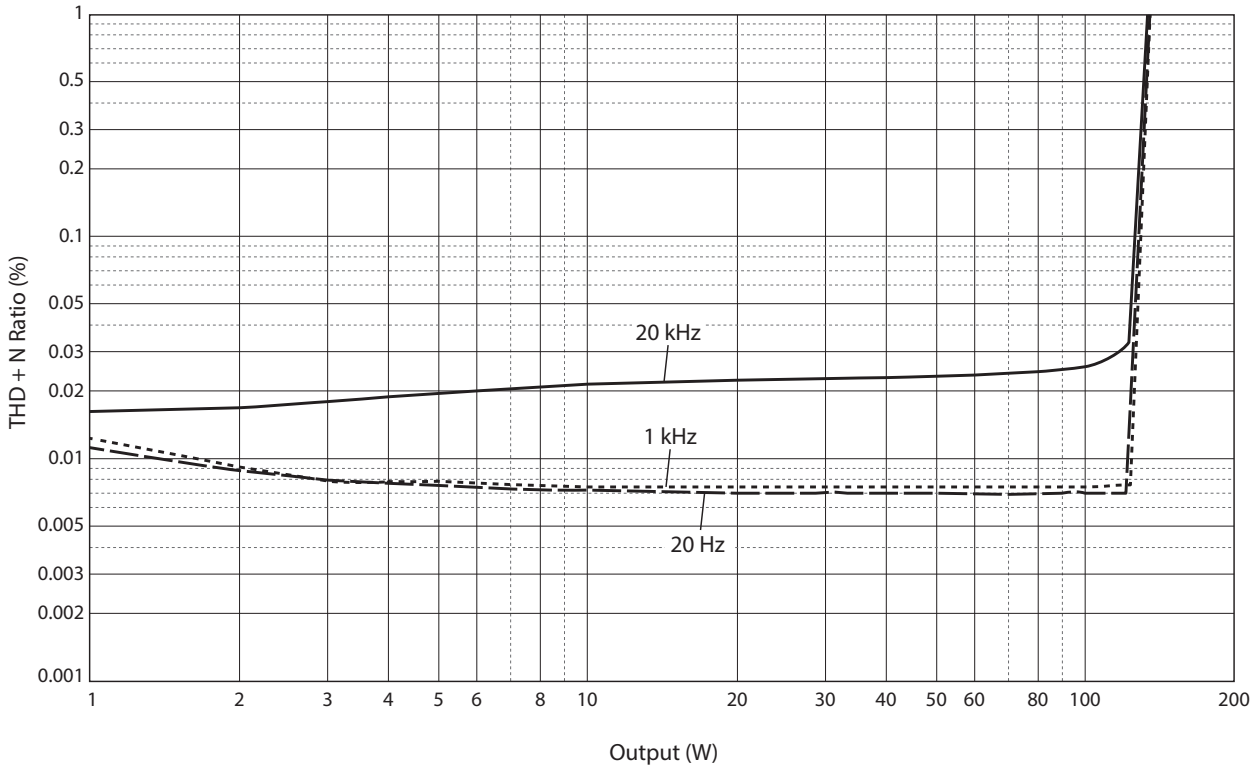
本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

ブロックダイヤグラム

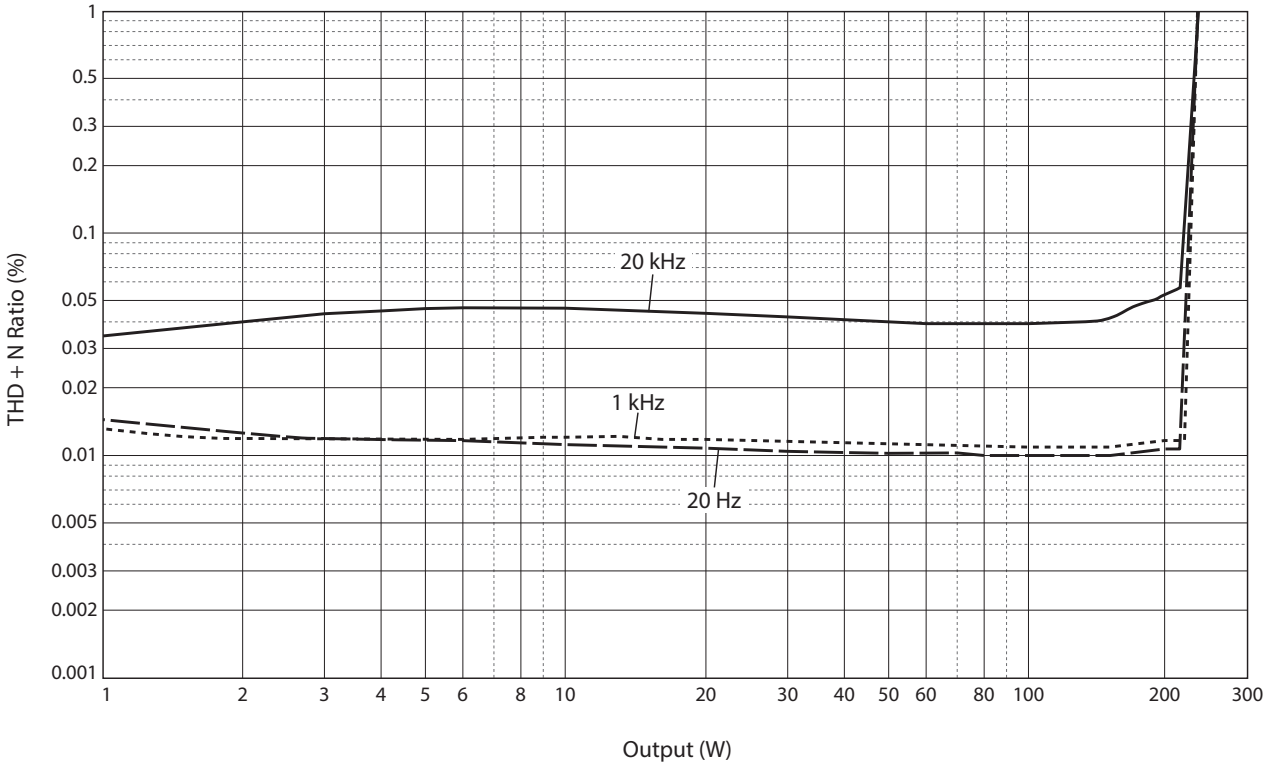

SPEAKERS L CH
SPEAKERS R CH
METER
METER CIRCUIT
LOG AMP
PEAK/VU
DRIVER
BALANCE
UNBALANCE
FLOATING BALANCE AMPLIFIER
POWER AMP
FLOATING INDEPENDENT POWER SUPPLY
L CH +
L CH -
R CH +
R CH -
POWER AMP PRE STAGE
L +/-
R +/-
MODE [NORMAL [DUAL MONO/BRIDGE
TOROIDAL TRANSFORMER
UNBAL⇒BALANCE CONVERTER
CONSTANT CURRENT POWER SUPPLY FOR AUDIO
POWER SUPPLY FOR CONTROL
INPUT [BAL [LINE
PHASE [NORMAL [INVERTED
SUB TRANSFORMER
CPU/LOGIC
STANDBY POWER
BAL L (DUAL MONO) (BRIDGE)
LINE L (DUAL MONO) (BRIDGE)
BAL R
LINE R

音響特性

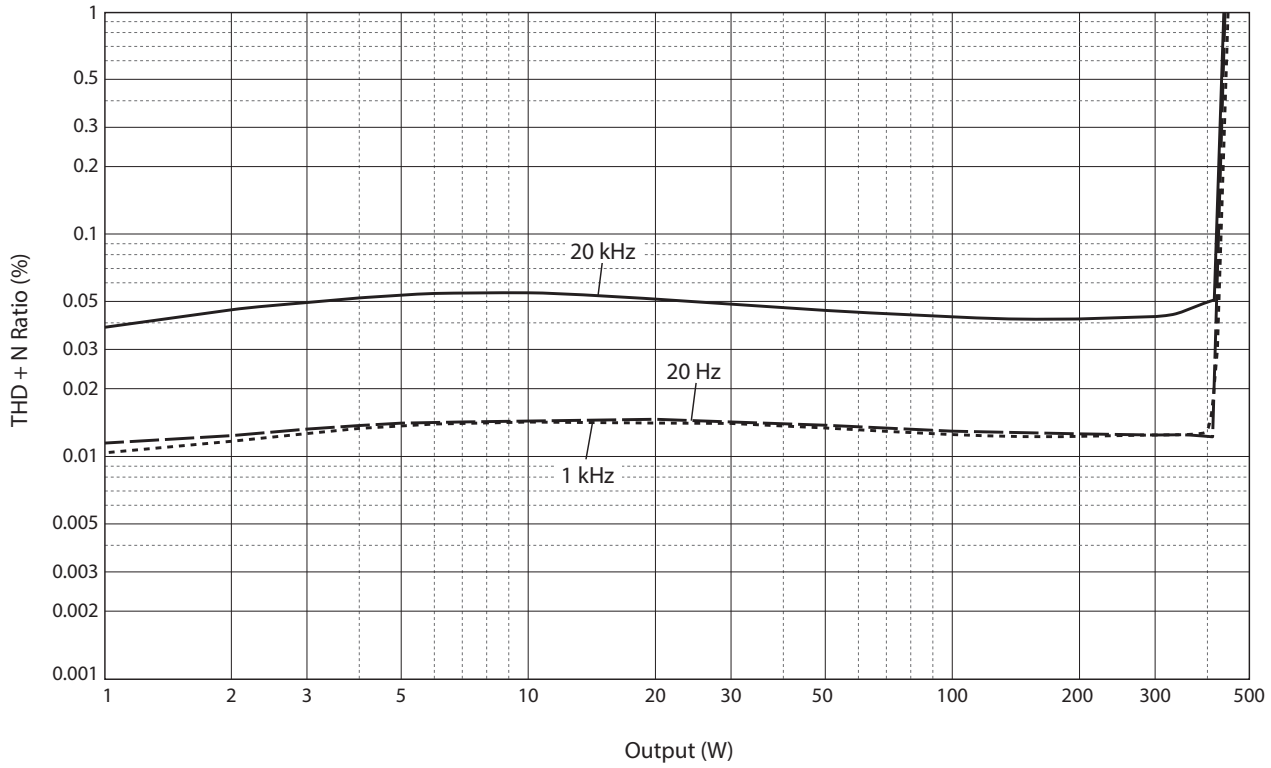
全高調波歪率（8 Ω）



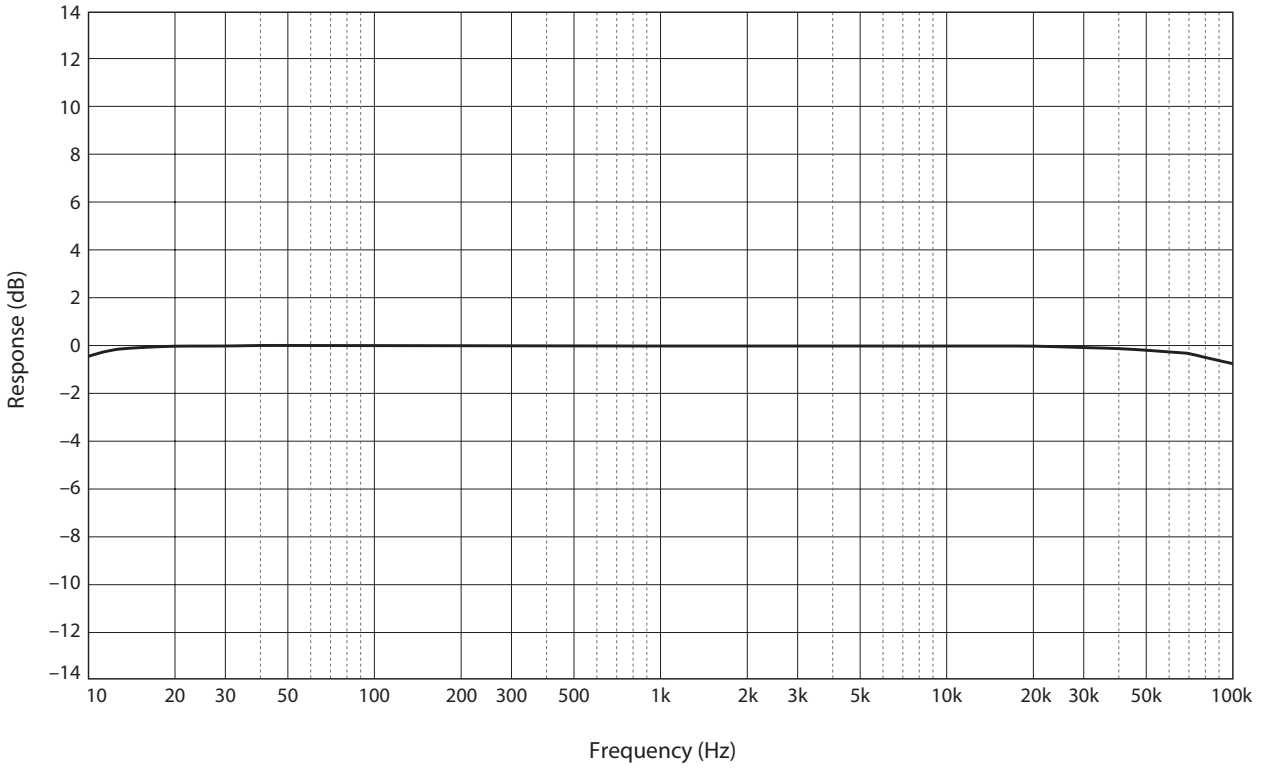
全高調波歪率（4 Ω）



全高調波歪率（モノラル 8 Ω）



周波数特性



困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合、下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。ヤマハ修理ご相談センターについては、別冊の「安全上のご注意」を参照してください。

症状	原因	対策	参照ページ
電源スイッチを操作しても電源が入らない	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードを正しく差し込み直してください。	24
	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度 ON にしてください。	16
	本機が外部電気ショック（落雷または過度の静電気）を受けた。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	24
STANDBY/ON インジケーターが点滅する	ショート等の原因で保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度 ON にしてください。	16
	本機内部の回路に異常がある。	電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ販売店にお問い合わせください。	24
電源を ON にしても音が出ない	ショート等の原因で保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度 ON にしてください。	16
	SPEAKERS セレクターが OFF になっている。	SPEAKERS セレクターを OFF 以外に切り替えてください。	6
	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	スピーカーケーブルの接続を確認してください。	16
	入力端子と INPUT の設定が合っていない。	入力端子と INPUT の設定を合わせてください。	12

症状	原因	対策	参照ページ
音声が突然出なくなる	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度 ON にしてください。	16
	スピーカーが正しく接続されていない。	接続を確認してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	16
低音の再生不良	スピーカーやアンプの＋ / －が逆に接続されている。	＋ / －を確認して、正しく接続してください。	15
ノイズ音（ハム音）が出る	バランス用とアンバランス用のケーブルを、同一機器同士で同時に接続している。	バランス用とアンバランス用のケーブルは、同一機器同士で同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。	12

索引

A

AUTO POWER STANDBY スイッチ 9

B

BAL 入力端子 12

I

INPUT セレクター 12

L

LINE 入力端子 12

M

METER セレクター 7
MODE スイッチ 9

P

PHASE スイッチ 10

S

SERVICE 端子 9
SPEAKERS セレクター 6
STANDBY/ON/OFF インジケーター 6
STANDBY/ON/OFF スイッチ 6

T

TRIGGER 端子 13

Y

Y型ラグのケーブル 17

あ

脚 9
アンバランス接続 10

い

インプットセレクター 12

お

オートパワースタンバイスイッチ 9

さ

サービス端子 9

す

スタンバイ / オン / オフインジケーター 6
スタンバイ / オン / オフスイッチ 6
スピーカーケーブルの接続 16
スピーカー接続 14
スピーカーセレクター 6

て

電源インジケーター 6
電源コード 24
電源スイッチ 6
電源を入れる 6

と

トリガー接続 13

は

バイアンプ接続 20
バイワイヤリング接続 18
バナナプラグのケーブル 17
バランス接続 10
バランス入力端子 12

ふ

フェーズスイッチ 10
プリアンプとの接続 12
ブリッジ接続 22

め

メーターセレクター 7

も

モードスイッチ 9

ら

ライン入力端子 12

Yamaha Global Site
https://www.yamaha.com/

Yamaha Downloads
https://download.yamaha.com/

Manual Development Group
© 2018 Yamaha Corporation

2018年9月 発行 IPEM-A0

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

J　VAQ1870